

# 令和2年度 第2回ACP作業部会議事録

日時 令和2年12月10日(木)

午後2時～午後3時

場所 安城市医師会館 2階 大会議室

## 1. 事務局より

### 1) 参加者について

参加者の追加について、主任介護支援専門員として出席しているが介護認定審査会出席のため木曜日の参加が難しい。代行としてケアマネット部会副会長に参加いただくことになった。しかし、この時勢柄介護認定審査会が急遽中止になることがあるためその際は、二人で参加いただけることになった。

また、このACP作業部会で検討した内容は、地域ケア推進会議で適宜報告し了承を得ていくことになる。

### 2) 部会長選出について

安城市のACPのパイオニア的な存在でもあり、あいちACPプロジェクトの研修会の講師である医師が承認された。引き続き、部会長より副会長として、介護系の方から指名がされ、承認された。

### 3) 部会長あいさつ

全国に誇れるものが作成できるよう頑張りましょう。

## 2. 議事

### 1) ACPの理念について

メンバーより提出のあったACPの理念について、本人より順番に説明がなされた。その後、3グループ分かれて、グループごとに理念を決め、発表。

### 2) 各グループの意見

	ACPの理念	グループからでた意見
1G	<ul style="list-style-type: none"><li>・私かわたしらしく「今」を過ごせる支援をめざす</li><li>・専門職としての矜持を持ち、共に考え、共に悩み、共に実践する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・私がいちらしく→価値観を尊重</li><li>・「今」→将来を決めるのは難しいが、今をその人らしく過ごせることを尊重することはできる。</li><li>・矜持→専門職としてのプライドを持つ。独りよがりではなく、相手を思いやり、プロとして意見を言う。</li><li>・共に→患者、家族、多職種を示す</li></ul>

2 G	医療・介護が協働し、その人がどのように生きたいか繰り返し話し合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亡くなることより、どう生きたいかに照準をあわせる。</li> <li>・入院中は在宅のことがわからない、逆に在宅では入院中のことがわからないため、協働で考えていく。</li> </ul>
3 G	普段から本人の価値観、人生観を意識したかわりを持ち、本人の望む生き方の実現を目指す（右の3つの言葉が心に留まったが、硬いためわかりやすくした）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思形成支援</li> <li>・意思表示支援</li> <li>・意思実現支援の実行</li> </ul>

3) 部会長よりキーワードとして重要なものはあるか

3 Gより

共に考え→職種間で考え方が異なるため、多職種で共に考えることが必要ではないかと思いいれた。

3. おわりに部会長より

A C Pはどう死ぬかではなく、どう生きるか考えるのが主体で大切なこと。先日行われた「生命倫理学会」では、一般市民はA C Pが率先して重要なこととは思ってない。主体は一般市民だが、共に考えていくものであり、双方で考えるものである。

4. 次回について

各グループから出た3案をひとつにまとめ、安城市のA C P理念を作る。

次回 A C P作業部会 令和3年1月14日（木）14時～15時 安城市医師会館